

第8回めぐりの森植樹祭

300人2000本!

強い風が吹きつけ今にも雨の降りそうな天気の中、植樹祭が始まった。大きなステージトラックの前に、植生工学士の植樹リーダー達が班分けをするプレートを持って立っている。

奥平グループとされた10名は、5班に割り当てられた。初めは15名の予定だったが、病欠が数人出てしまった。選ばれた10名は、それぞれの事情を乗り越えて参加された方ばかりだ。

ReNaFoの高野さんのお話し、宮脇先生のお話しが始まる。いつも同じことを繰り返されているが、同じことでも受け止め方がどんどん変わってくる。理解が深まってくる。

特に、神奈川県湘南海岸に森の防潮堤を作りたいとお考えらしく、毎回この植樹祭に参加されている黒川副知事を激励されていた。

同じく湘南海岸に森をつくりたい私にとって、実現の兆しを感じた瞬間だった!

他にも数名の方が登壇。県議会の方たち。カナダから植樹祭のために来日された、分子生物学の女性の先生。俳優歌手の梅沢富美男夫人、フィットセラピスト(植物療法士)である、池田明子さん。そして、何とサプライズゲスト!市川海老蔵さんが舞台上に立ち、それぞれの苗の名前を叫ぶ!「タブノキ!」「アラカシ!」「アカガシ!」「ウラジロガシ!」「シイノキ!」...。壇上と会場が呼応する。特に海老蔵さんの「シラカシ!?!」という叫び声がとてもユニークだった。奥様が第一回目の植樹祭に参加していたらしい。とても堀が深くカッコイイが、2児の子を持つ父親になりやさしい感じがした。



植樹の神様 宮脇昭先生&NPO地球の緑を守る会

報告者:NPO法人
地球の緑を守る会
理事(植生工学士)
奥平里美

【日時】
2013年11月10日(日)
10時-12時:植樹祭
12時-14時:バンド、特設テントお楽しみタイム

【会場】
湘南国際村めぐりの森

NPO地球の緑を守る会からは、10名参加しました。理事、現役大学生(農業、理系)、花屋さん、パン屋さん、自動車メーカー、水源の研究家さん、医療関係の方...
東京、埼玉からもお越しいただきました。
ありがとうございました!



梅沢富美男夫人と



市川海老蔵さんも、「シラカシ!?!」



木の名前を覚えた後は、植え方だ。宮脇先生が、シャベルと苗をもって分かりやすく説明される。40分くらい経過して、植樹の現場へ移動。な...何と！5班は宮脇先生と海老蔵さん、カナダの先生と一緒に作業することになったのだ！（もしかしたら、人で不足のため...？）

宮脇先生と縄を掛けたり、海老蔵さんとブルーシートを畳んだり。普通だったら肩を並べる機会がない有名人でも、**自然の前では同じ”人間”**なんだと感じた。共に穴を掘り、苗を植え、共に藁を敷き、縄をかけるところまで、全て参加者全員の共同作業であった。

終わってみると、フカフカの藁の中で、苗が気持ちよさそうにしている。この藁が土の湿度を保ち、雑草を抑制し、土の栄養分になるのだ。また、縄をかけるのは藁が風で飛ばされないようにするためだ。あと2~3年は”育樹”といって雑草抜きが必要だが、その後は管理費がかからない、ふるさとの森として成長してくれる。藁も供給が間に合わない価格が上がっている中で、そのコストも惜しまず、愛情深く植樹する現場だからこそ格別なのだ。

数年前に植えた現場を見に行った参加者が、「1本だけ大きくて、周りがあまり伸びていなかった。あんなにギュウギュウ詰めで植樹されるのは良くないのでは。」と心配していた。

1㎡に3~5本、混ぜて高密度で植樹することによって、競り合い効果でより早く成長する。つまり、我慢と競争が必要な環境がなければ、大きく育つものも現れず、全体の成長が遅れてしまうのだ。

植樹祭の中にも、**厳愛と慈愛**の両方が存在する。それは子育てにも通じることかもしれない。



\\ We Love CANADA★ //



カナダのTV局の前で

植樹後、バナーを持ち宮脇先生をお呼びして、一緒に写真撮影！
終わった後に、一人ひとりの手をギュッと握りしめてくださった。
85歳の宮脇先生は、手が大きく握力が強い！

その次に、カナダの先生に声をかけ写真撮影！
カナダTV局のカメラがまわる前で、「We Love CANADA！」と手を振った。「let's plant tree all over the world!」

この時、植樹で世界平和は作れるのではないかと思った。
なぜなら、言葉があまり通じない初対面のカナダの先生と、国境を越えて家族のような気持ちになり、肩を抱きしめて共に喜んだ瞬間。
私はカナダを好きになったし、先生も日本を好きになったと思う。
ふるさとの森づくりは、最高の外交手段かもしれない...！



We are families! Let's plant tree all over the world!

最高の外交は「その国へ行き、その国のふるさとの森の木を現地の方と植えること」なのかもしれません。ドイツで生まれ日本で大成した「ふるさとの森づくり」のノウハウは、日本で使って終わりではありません。もっと世界に広めていかなければならない、世界最先端の技術です。

故やなせたかし先生デザイン
のオリジナルキャラクター
ター地パンマンと！



植生工学士同期★



進和学園の同期の方。今回、植樹祭後の企画をコーディネートしてくれました！



今回から初めて、地元のお店の屋台
が！あったかいケンチン汁おいしかった
～。

広がる、森づくりトモ。ここにしかない出会い。仲間。



We are Hero&Heroine!



木を植えている姿は、どの人を見てもカッコいい！簡単な作業に思えても、始め出すと夢中になります。そして、自分自身の本心が大喜びします。「私って、いいことしてる!!」と、疑いなく感じられます。私も昔は自己卑下に陥りやすく、自信がない人でしたが、今は自信があります。「私は世界に必要とされている！」と心から感じるのです。「自分が幸せになりたい」と人と比べていた思いは消えて「みんなを幸せにしたい！助けたい！」と心の衝動を感じられるようになりました。

木を植えることは、心に木を植えること。それは、**自信**になり**利他心**(思いやり)にまで発展するのです。その輝きは自分自身だけでなく、他者からも感じることができます。普段関係が近くて嫌なところばかり見えてしまう家族や友人、出会って間もない方も、植樹をしている姿がカッコよく感じ、その人が好きになります。

さあ、次はあなたの番です！

「この苗木が、9000年続く森になっていく、永遠に続くものになると
思うと、本当に自分の手が加えられてうれしいです！

念願の植樹祭に今回初めて参加することができました！

宮脇先生の研究を知って以来、ずっと参加したいと思っていましたが、
私にとって予想していた以上に素晴らしい時間となりました。

宮脇先生の本などを読んでいたのでふるさとの木である照葉樹林を再生させる

ことがいかに大切か、ということを学ばせていただいていたので、
私達の手で照葉樹林の主木となる苗木を植えていると思うと胸が震える思いがしました。
苗木を赤ちゃんをお世話するように優しく植えるよう心掛け、本当に苗木がかわいく思え
ました。これから立派な木々に成長しこの土地を守ってほしいと思いました。
しっかり根付いていってほしいです。

今回はこのような機会に参加できて感謝でいっぱいです！

今後は自分でどんぐりから苗木を育ててみたいと思います。

**「木を植えたら「木がかわいい！」という愛着が湧いてきま
した。「大きくなるんだよ！」と心を込めて植えました。
植物は動けないから、しっかり根付かせてあげたい。
もし木を切られたら、「やめろー！」と止めるでしょう。」**

「生まれて初めての植樹祭参加でした。環境保全に携わる人た
ちがたくさんいることにびっくりしました。この活動に参加す
るようになり台風の被害による土砂崩れのニュースを聞くたび
にいかに自然崩壊のつげがきているかを考えさせられ 本当に
大事な活動だなどと思いました。できることから取り組んでい
こうと思います。」

「湘南国際村での活動は2回目でした。1回目は今年の5月に行い、自然の中
での活動にリフレッシュできとても気持ち良かったのを覚えています。私が5
月に植えた木も少し成長しており、枯れずに育っている姿を見て安心しまし
た。

今回は芸能人の市川海老蔵さんも参加され、また、カナダから博士も来ら
れておりいつもとは違う、ゲストの多い植樹祭でした。その中でも宮脇先生
が前で話される内容はいつもと変わりませんでした。それは、その土地本来
の木を植えないと意味がありません、という内容でした。

自分の手で木を植えることで着実に地球の自然回復を行っているのだと実
感でき、活動後は清々しい気持ちで帰ることができました。また、一緒に参
加した方の中で始めて植樹をされる方もおり、お互い話し合い楽しみながら
活動しました。

今回の活動をFacebookで報告したところ、次の活動には参加したいと
言ってくれる友人もあり、少しずつ自分のできる範囲で、この地球の緑を守
る活動の輪を広げられるように努力したいです。

**「ともかく楽しかった！あれだけの人数が集まっているのが
すごい！終わった後のバンドも楽しかった。
もっと小規模なものでも回数増やしたい。楽しいイベントになる。
子どもも夢中になって植えていた。」**

「いつも仕事で機械を相手にしているので、自然と触れ合うキッカケが少ない
ので、とてもリフレッシュできました！空気がおいしく、緑が目優しく映ります。

木の苗木を植える時は、この苗木を植えると未来に残せて輝かしい自然が残せ
てすごいです。苗木の長い根っこを見たら、人生で例えるなら基盤がしっかりして
て一生倒れない木ができるな一っと思いました。」

「お蔭様でグループの皆様方と交流もできて、次回またお会いできるのが楽し
みです。今日は宮脇先生のエネルギーを受けて、元気いっぱい木々達が成長
するのを想像しながら、楽しみながら植樹をする事ができました。
これからも今まで以上に積極的に参加していかなければ...。
沢山の人々に植樹の大切さを伝えていかなければ...。等々考えを改にまた出
発致します。
PS.海老蔵,梅沢富男夫人に会えて、ビックなサプライズに超嬉しかったです
(>_<)」

**「とてもたのしかったです。
また行きたいと思います！」**



参加者の感想

今回の植樹祭で紹介されたおすすめの本

森の力

植物生態学者の理論と実践
宮脇 昭



育樹祭のご案内

日本各地で宮脇方式による植樹祭が行われています。宮脇方式は、短期間で森を作る手法としては最良と言えます。苗木の生存率も高く、維持管理の手間もお金も少なく済みます。

湘南国際村でも、今までに10回以上植樹祭が行われました。植栽後の手入れは、毎回植樹祭の準備に携わってきた当協会会員や、進和学園の皆様の手で行われてきました。

しかしながら、その他の植栽地では、不必要な伐採や草抜き作業の際に誤って苗木が切られてしまう事態が少なからず起こっており、植栽地が森になれずに荒れ放題と言う光景があちこちで見られます。

森づくりは、植えておしまいでありません。苗木がしっかり根を張り、ある程度の大きさに育つまでの間は、草抜きくらいは必要なのです。おおむね3年経てば、あとは何もしなくても立派な森が出来上がって行きます。

実は湘南国際村の育樹作業も、決して十分な人手を確保できているとは言えない状況です。

お越しになった皆様には、今後は植樹終了後にしばらく現地に足をとどめ、今までに植えられた苗木がどのように育っているかその目で確かめて、出来れば草抜きをしてその生育を助けて頂きたいと考えております。今回の植樹祭終了後のイベントが、そのきっかけとなればと思っております。



今回の植樹祭は、実に多くの準備があって実現した。植樹に使われた苗は平塚の進和学園様を作っている。

ドングリ拾いからポット苗作りを行い、その売り上げは知的障害者の方達の工賃になっている。管理体制は徹底され、品質はプロフェッショナルだ。育樹作業もして頂いている。

また、表土の削られた現場は、重機が入って盛り土をしてマウンドをつくる所から始まる。

11月8日から植生工学士は招集がかかり、現場スタッフとして活躍する。当日の現場指導をしていた方たちのことだ。

専門家になれば、あなたも植樹祭の場で指導できる立場になれる！



ReNaFo主催 植生工学士 資格研修のご案内

植生工学士2泊3日研修 **2014年6月7～9日** 湘南国際村 ※下記、昨年の案内より抜粋。

森づくり専門家への最短コース

自然林を速やかに再生するためには、ふるさとの森づくりの哲学から現場技術まで一貫したノウハウを身につけた専門家が必要になります。この研修は森づくり専門家への最短コースです。

多様な自然林の再生は津波対策だけでなく、各種防災・環境改善・観光資源・地場産業基盤としての効果も期待されます。明日のため、子孫のためになにか良いことをしたいと願う方には、是非この研修を受講し、「植生工学士」の資格を取得していただきたい。全国各地でふるさとの森づくりの企画・実施・支援等、専門家としての活躍の場が待っています。

Ⅰ研修後取得する資格：研修では、自然林再生の専門知識を3日間で習得し、最後の試験（聴取確認）にパスすると、専門家の資格が付与されます。

資格名：「植生工学士」（ふるさとの森づくりマイスター）【商標登録第5351787号】

Ⅰ研修カリキュラム： 宮脇昭、鈴木邦雄、原田洋など植生生態学の専門家のほか、豊富な実務経験を有する実践家を講師にお迎えして、哲学・理論から現場実習まで充実した研修を提供します。